


えぐちーず

(部内資料)

連絡先 日本共産党区議団控室 世田谷区世田谷 4-21-27 区役所第2庁舎内

Tel 5432-2791 fax3412-7480 メール eguchi3604@gmail.com

 フェイスブックしています

ホームページ <http://egucheese.net/link>

2018年7月3日

喜多見・大蔵では、外環道工事の地上部の大規模な工事が続いています。地下では、地下トンネルを掘るシールドマシンが2台発進するなかで、地上部の野川に気泡が出現（空気漏れ）また地下水流出が起きています。

これまで事業者は、「大深度トンネルは地上部の影響がない」と説明していたにもかかわらず、それを覆す重大な事態です。

宮本 とおる衆院議員、 住民の方々と野川の 現地調査を行いました

この間、地域の方からは、野川の異変について江口区議へ情報提供がありました。住民の方と現地調査し、気泡が出ている場所のすぐ上の歩道で観測用井戸が溢れるまた警備員が24時間体制で見張る状況等確認。

こうした事態を国会議員団へ伝え、6月22日の現地調査となりました。

当日は地域住民が約10名参加。また、事業者からはネクスコ東日本副所長とネクスコ中日本外環東名北工事長が説明に入りました。

以下、事業者とのやり取りの簡単な概要です。

- ・シールドマシンが掘削するとき、先端の界面活性剤が微細な隙間から地上部へ出て、野川の気泡となっている
- ・野川以外の地上部にも空気が出ている可能性もある
- ・気泡の酸素濃度は低い
- ・観測用井戸が溢れたのは、地下からの空気が漏れたときに、水を押し上げたため

住民の方々からは「環境や地上部に影響がない、と言っているが信用できない。なぜ気泡が白濁しているのか？酸素濃度が低い空気が出ているのに、なぜ環境影響が無いといえるのか？」等意見が続出しました。

私からは「地元の不安は増している。説明会を行うべき」と強く求めました。



↑5月中旬から出ている野川の気泡



↑溢れた観測用井戸と野川を見張る警備員



↑6月25日、赤旗で報道されました

野川の気泡問題で、 国交省へ申し入れを 行いました



↑ 国交省へ申し入れ文書を手渡す

現地調査後の6月29日、国交省へ区議団として申し入れを行いました。

申し入れには、宮本とおる衆院議員、リニア問題を追求している東海地方選出の本村伸子衆院議員、吉良よしこ参院議員、里吉ゆみ都議が参加しました。沿線住民の多くの方にもご参加頂きました。

国交省への区議団としての申し入れ内容は、野川気泡問題で住民の不安は増しており、説明会の開催また影響などの調査を行うこと、そして住民の理解が得られるまで工事中止等です。

国交省の説明は、これまでの地下トンネル工事でも空気が地上部に漏れるとことはあり、今回の事態もあり得ることと専門家から意見を聞いている、という説明でした。

これに対し、住民の方が、

「大深度トンネルは地上に影響がないと繰り返し説明されてきた。空気が漏れることもあり得るなんて、一度も聞いたことがない。そもそもの前提が崩れているよ！」

「空気漏れがあり得るなら、なぜ説明してこなかったのか？住民を騙していたのか？」

「先日、現地調査でネクスコ担当者は気泡の酸素濃度は環境基準以下と言っていた。

そんな空気が地上に漏れていて、なぜ影響が無いなんて言えるのか？」

「私の家の真下に外環道の大深度トンネルが走る。私の家に酸欠空気が漏れるなんて冗談じゃない！」

「今、半地下の家も増えている。そこに酸欠の空気がたまったら、酸欠事故ですよ!!」等々

非難の声や意見が多く出されました。

私達議員からは、

「大深度トンネルは地上に影響がないという前提が崩れている。」と指摘、

「こういう事態が生じた以上、説明会等で住民にきちんと見解なり説明すべきだ」

「当面の工事中止を行うべき」と、要望しました。

事業者側は、7/7喜多見常設会場でオープンハウスを行うと説明がありました。

事業の前提が崩れている事態であり、引き続き国会議員団、住民の方々と力を合わせ、追求していきます。

東名ジャンクション周辺地域の外環道オープンハウスのお知らせ

場所：喜多見 7 丁目常設会場世田谷区喜多見 7-33-18

日時：平成 30 年 7 月 7 日（土曜日）午後 1 ～ 5 時

アクセス：「砧中学校下」バス停下車